

～被災地の復旧・復興に貢献された 中小企業の皆様方の取組の紹介に当たって～



東日本大震災により、被災された方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

東日本大震災は、人口減少・少子高齢化による需要不足、新興国との競争激化等の厳しい経済状況の中で発生し、まさに「停滞の中の危機」がありました。津波、地震、原子力災害等により、多くの中小企業の方々が甚大な被害を受けることとなりました。

この震災から復旧する過程で明らかになったように、中小企業は、我が国のサプライチェーンの中核を担い、我が国経済を支える存在です。また、国民の生活必需品を供給し、暮らしを支える重要な役割も担っています。日本経済の復興のためには、被災された中小企業の皆様方の一日も早い復旧・復興が鍵となります。

現在、被災地の復旧・復興や被災地への支援に向けて、数多くの中小企業の方々が、日々懸命な取組を続けられていることは大変心強く思っています。そこで、これら中小企業の皆様方の取組を、幅広く全国の中小企業の方々に御紹介することとし、多くの関係団体・自治体の方々の御協力をいただいて事例を取りまとめ、ここに第一弾として公表することといたしました。

もとより被災地の復旧・復興に向けての懸命な取組は、今回御紹介する方々に限られるものではありません。今後も機会を見ながら、中小企業の皆様方の取組の御紹介を続けていきたいと考えております。

被災地の中小企業の皆様方の早期の復旧・復興を図るため、政府としても資金繰り支援等を始めとして多くの対策を講じております。こうした中小企業の皆様方の尊い取組がある限り、我が国は必ずや早期の復旧・復興を成し遂げることができるものと確信しております。

今回の御紹介がきっかけとなって、被災された中小企業の皆様方のみならず、全国の中小企業の皆様方にこれらの取組が広がり、被災地の一日も早い復興、そして力強い発展につながることを祈念し、挨拶といたします。

平成23年8月
経済産業大臣

海江田万里

想い×行動力×人脈で、誰よりも早く被災地にパンを届け続ける町のパン屋さん。



株式会社パン・アキモト

代表取締役
秋元 義彦

栃木県
那須塩原市東小屋295-4

1947年(昭和22年)設立
TEL 0287-65-3351
<http://www.panakimoto.com>

《事業概要》食料品製造業（一般のパン類、長期保存可能な「パンの缶詰」
カンカンブレッド、健康パンの製造）
(従業員48名、資本金3,500万円)

《震災直後の状況》

本社の所在地は震度6弱を記録し、オーブンなど一部生産機器が被災。機器の点検と停電により製造を一時中断。

《被災地の復旧・復興に向けた取組》

地震直後食糧難に陥った被災地に一刻も早く食糧を届けるべくパンの缶詰を製造し、3月14日夕方には、義捐物資として、練馬区の防衛省施設に運び、翌15日にはヘリで福島県の被災地に届けてもらった。

その後、今日に至るまで仲間や支援者の応援で継続的に東北各地の被災地にパンの缶詰や食パンなどを送る活動を続けている。
(「パンの缶詰」は神戸震災の被災者の声から生まれたモノであり、被災地支援もその使命の一つと捉えられている。)

また、「救缶鳥プロジェクト」により、販売されたパンの缶詰（2年間非常食として備蓄でき、2年後に義捐物資として送ることができる非常食）を購入者から緊急回収し、被災地へ送る活動も行った。それぞれに東北応援のメッセージが付いており、被災者の心に応援者の思いも届いたと確信している。最近はスポンサー付きの義捐パンを、被災地へ送るプロジェクトも試みられている。

被災地・被災者からの御礼の手紙やメールが沢山届いている。

《被災地の一層の復旧・復興に向けたメッセージ》

沢山の優しい国民が被災地を忘れていません。出来るだけ支援を続けますので、自身でも立ち上がるきっかけを見つけてください。なでしこジャパンのように「最後まで諦めないこと」も、その一つだと思います。